

「最も小さい私を祝福してくださる主イエスさま」

「ブラックフライデー」という言葉をご存じですか？あまり聞きなれない言葉でしたので調べてみると11月の第4木曜日の翌日のことで、小売店などで大規模な安売りが実施されるそうです。アメリカでは感謝祭の翌日は正式の休曜日ではないのですが休暇になることが多くて、ブラックフライデー当日は、感謝祭プレゼントの売れ残り一掃セールになっているそうです。(参照 Wikipeddia)

教会暦は収穫感謝祭を経て最後の主日「降臨節前主日」を迎えます。この主日は、

「王であるキリスト」、「キリストによる回復」とも呼ばれます。

終末（神の国の完成）には王であるキリスト・イエスが再臨されて私たち一人一人はその御前に立たされます。

そして、すべての国の民は右と左に分けられます。右側に分けられた人は、神の国を受け継ぐ人です。

イエス様は「お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渴いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ」（マタイ 25:35~36）と右側に人たちに言います。

ところが、右側にいた人たちはそのことについて実に覚えがないと答えるのです。

私たちの人間関係は「win win」がおそらく多くの人の賛同を得られるのではないのでしょうか。お互いに得をするということです。

しかし、これでは右側ではないですね。

計算して愛の奉仕をする下心では、間違いなく右側には行けませんね。

私自身、このことについてどうだろうかと考えてみました。いろいろなケースがあると思います。

「win win」は当然あります。「計算した下心」も正直にいうとあります。これは隣人へ

の愛という大義名分で実は、自己満足、偽善であると自己反省しています。

しかし、たまに自分では全く覚えていないのですが、感謝の言葉をかけられることがあります。

「はて、そんなことがあったかな？」と過去の記憶をたどるのですが思い出せません。でもこのようなことはごくごくわずかです。

人間の記憶は意外としっかりしているもので私たちはけっこうしたたかではないでしょうか。右側に選ばれる人はどんな人なのだろうか、本当にいるのでしょうか。

「はっきり言うておく。私の兄弟である最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」（マタイ 25:40）です。

王としてこの世界に来られるイエス様は、最も小さい者として来られるのです。最も小さい者に目を向けなさいというメッセージとして心に留めることも大事ですが、最も小さい者は実は「私」自身なのです。最も小さい者である「私」に対してイエス様は祝福してくださっているのです。

自己本位で、計算高くしたたかな心を持つ「私」にです。この源に常に立ち返っていくことが大切だなと思います。今日の自分があるのは誰のおかげか、今日生かされているのは誰のおかげか、いつも忘れないで生きていきたいと思います。（司祭 越山哲也）